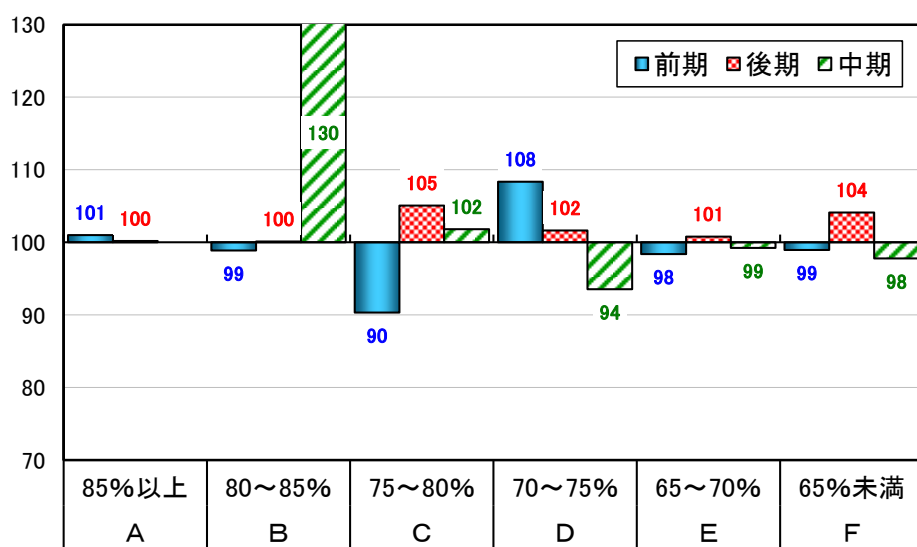


※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎データネット目標ライン別志願者数集計

□前期はCグループで減少、Dグループで増加、後期はCグループでやや増加



左記のグラフは、2022 年度のデータネット(駿台予備学校/ベネッセコーポレーション主催、共通テスト自己採点集計)において、募集単位ごとに設定された合格目標ライン(B判定ライン、合格可能性60%)を基にして、学部単位(医学科は別集計)で得点率により6つのグループ分けを行い、日程別に各グループの志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。

前期全体では(99)の微減ですが、Cグループが減少し、Dグループで増加しています。他のグループは前年度並となっており、志願者数の変動はほとんどありませんでした。その中で、共通テストの平均点大幅ダウンの影響がCグループに大きく影響し、合格可能性の高い大学へ志望変更があったことを示しています。詳しく見ていくと、Aグループ(101)は微増で、東京大・理二(113)や京大・工(111)の増加がありましたが、一方で名古屋大・医(医)(43)の大幅減少などもあり、微増に留まりました。Bグループ(99)は微減で、共通テストの平均点大幅ダウンでこのグループになった難関大志願者が出願先を変更しなかったことと、このグループに含まれる医(医)などの増減が拮抗したことが影響しました。Cグループ(90)は減少で、鳥取大、愛媛大、大阪公立大などでこのグループに含まれる学部の減少が目立ちました。

後期全体では(103)のやや増加ですが、AグループとBグループは(100)の前年度並ですが、Cグループ～Fグループは増加傾向で、共通テストの平均点大幅ダウンの中で前期難関大志願者が後期併願先を比較的目標ラインが低いグループに求めた様子が見受けられます。詳しく見ていくと、Cグループ(105)のやや増加は、このグループに含まれる富山大、島根県立大といった大学の学部での大幅増加が影響しました。

公立大のみの中期は、Bグループ(130)で大幅増加していますが、大阪公立大・工、都留文科大・文の大幅増加が影響しています。Dグループ(94)はやや減少していますが、このグループに含まれる芸術系の学部などでの減少が目立ちました。なお、もともと対象大学が少なく募集人員も少ないため、特定大学に志願者が集中しやすく指数が大きく変化する傾向があることから、あくまでも参考としてください。